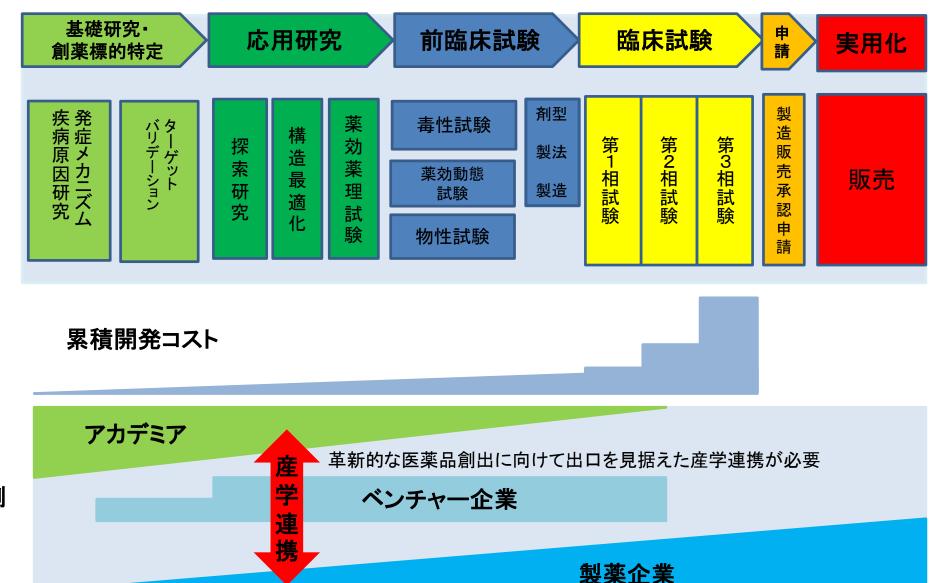


CSTI政策討議 説明資料

平成29年11月29日 厚生労働省



役割

SCRUM-Japan(産学連携全国がんゲノムスクリーニング)

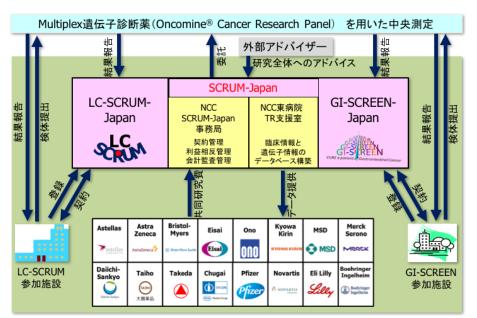
(Cancer Genome Screening Project for Individualized Medicine in Japan)

注) 国立がん研究センターHP:http://www.scrum-japan.ncc.go.jp/outline/index.htmlを基に作成

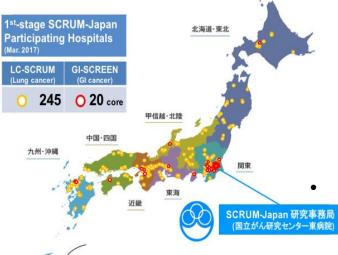
【概要】

- 国立がん研究センターが事業主体となり、全国250施設の参加医療機関において、同意を得られた患者が無償でがん遺伝子異常のスクリーニング検査を受けることができる取組
 - ・患者は、検査で見つかった遺伝子異常を対象とする新薬の治験に参加可能
 - ・企業は、同センターからの情報・データベースを活用し、医薬品の研究・開発を実施可能
- 厚生労働省は、同センターに対し、情報・データベースの構築等について研究費の補助し、産学連携を推進

製薬企業16社との共同研究



全国約250の医療機関が参加



40の関連治験

医師主導治験 1

企業治験

内資 10

外資 19

170例以上の登録実績

希少肺がん治療薬・コンパニオン診断 薬の承認、学会ガイドラインに貢献

* LC: 肺がん GI: 消化器がん

29

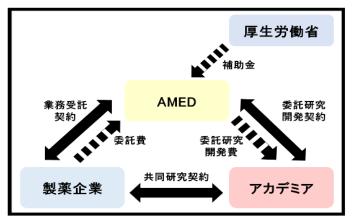
厚生労働省における産学連携の取組(例):

GAPFREE(産学官共同創薬研究プロジェクト)

<u>F</u>unding for <u>R</u>esearch to <u>E</u>xpedite <u>E</u>ffective drug discovery by <u>G</u>overnment, <u>A</u>cademia and <u>P</u>rivate partnership

【概要】

革新的新薬の開発に向けて、アカデミアにおける良質な臨床検体収集体制や先進的な遺伝子等の解析技術と、 製薬企業における創薬ノウハウとの橋渡しを図る取組(平成27年度~)。



【体制】

- 参画企業も一定の研究費を拠出。
- ▼フカデミア側の研究成果の公表等については、参画企業による事前了解が必要。
- ▼フカデミア側の研究成果の移転に際しても参画企業に優先交渉権を付与。
- 参画企業自らによる研究成果に関する知的財産権等は参画企業のみに帰属。

プロジェクトの例

【研究期間】平成28~32年度

臨床予測性を高めることにより革新 的な医薬品を創出するため、臨床研 究データを起点に創薬研究を推進。

